

# 収穫機械を利用したスペアミントの省力化栽培体系

## スペアミントの省力化栽培マニュアルを作成

### 背景・目的

- スペアミントは、アイスやお菓子のフレーバーとして需要が高い作物ですが、栽培面積を拡大するにあたり収穫作業に労力がかかることが負担となっています。
- 可搬型茶摘採機を利用した収穫方法を確認し、省力化栽培マニュアルを作成しました。

### 成果の内容

- 可搬型茶摘採機に車輪を取り付ける簡易な改良を行うことで、移動や作業がより容易な収穫機械となります（写真1、写真2）。
- 改良した収穫機械による実作業時間は、慣行のハサミ刈りと比較して約50%削減できます（図1）。
- 作成した省力化マニュアルには、栽培暦や基礎的な栽培技術も掲載しており、これから新たにスペアミント栽培を始める方にも参考となる資料となっています（図2）。



写真1 改良した収穫機械

写真2 収穫の様子

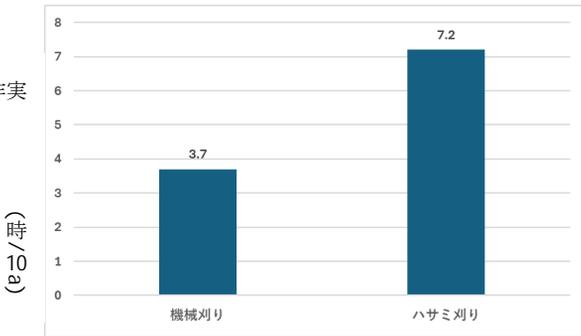


図1 ハサミ刈りとの作業時間比較

### スペアミントの省力化栽培マニュアル

令和7年3月作成  
宮崎県総合農業試験場 薬草・地域作物センター

#### 1 スペアミントの特徴

シソ科の多年草。和名はミドリハッカ (Mentha spicata L.)、オランダハッカ (Mentha spicata L. Crispa)。主な香気成分として「カルボンを」が含まれており、甘さのある柔らかな香りが特徴。飲料水やガム、アイスクリーム、リキョールなどの香りづけに広く利用されている。ヨーロッパでは、ミントといえばスペアミントを指す。生育旺盛であり、栽培は比較的容易だが、交雑しやすい。

#### 2 栽培暦

生育期	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
定植	← 定植 →												← 収穫・刈取 →												← 切り戻し →											
生育	← 地下茎・ボット・根付 →																																			
地肥	← 堆肥・基肥散布 →																																			

- ・地肥 2t/10a、畜土石灰300kg/10a (土壌分析結果により判断)
- ・基肥 N、P、O<sub>2</sub>、K<sub>2</sub>O各10kg/10a
- ・追肥 収穫後に、液肥で行う
- ・育苗 5cmにカットした地下茎を、6cmポットに植付ける
- ・定植 育苗した苗を定植する (図2)
- ・栽植密度 畝幅150cm、株間30cm、条間30cm  
二条千島植え (10a当たり4,444株)
- ・マルチ マルチ利用 (シルバーが好ましい)
- ・病虫害 アブラムシ、ハダニ等がみられるが、発生頻度は少なく、収穫に大きな影響はない。夏場のさび病に注意が必要
- ・収穫方法 収穫機を使用 (可搬型茶摘採機の改良型または市販の収穫機)
- ・収穫機の種類 既存の機械に24インチの自転車車輪 (チェーンを外したものを) を4輪取り付け、走行できるようにしたもの
- ・収穫回数 10aあたり1,500kg以上 (生重)
- ・収穫機回収 年3回から4回程度
- ・収穫機回収 年3回から4回程度
- ・収穫機回収 年3回から4回程度
- ・収穫機回収 年3回から4回程度

#### 3 留意点

本マニュアルは、宮崎県小林市野尻町で試験栽培したスペアミントの調査データを参考に作成したものである

図2 スペアミントの栽培マニュアル

### 成果の活用方法 (又は期待される効果)

- 省力化により栽培面積を拡大し、大量生産することができるようになるため、取引先が増えて生産者の所得向上につながります。

### 留意点

- マニュアルは、宮崎県小林市野尻町で試験栽培したスペアミントの調査データを参考に作成したものです。

関連研究成果カード：2025年度整理番号26

関連事業名：県内産原料用ハーブ生産に向けた新たな栽培技術の開発事業(県単)

研究期間：2022～2024年度